
2022年度 事業報告書

より良い 2023 年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

目 次

Ⅱ 2022 年度事業報告	2
1. 今治市民活動センター管理運営事業	2
2. その他の事業	12
3. 会議に関する事項について	14
Ⅲ 2022 年度決算報告	15
Ⅳ 2023 年度事業及び予算	20
1. 2023 年度事業計画書	20
2. 2023 年度事業予算書	25

Ⅱ 2022 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

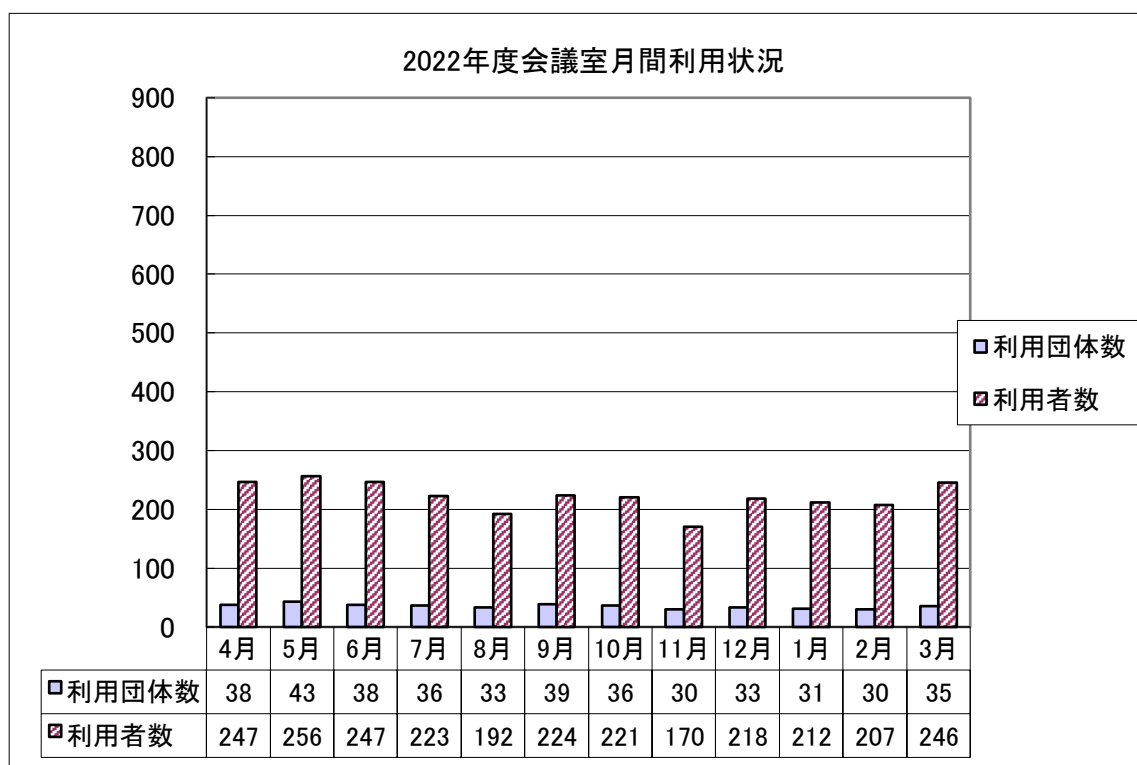
(1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。 ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果	会議室の利用者は 422 団体 2,663 人となった（R3 年度；443 団体 2,327 人）。今期も新型コロナウイルス感染拡大を防止しながらの運営となり、特に愛媛県による「BA・5 医療危機宣言」時（8/24～9/16）は、予約の制限を行うなど、参集しての会議の自粛を求めた。年間を通して、会議等を控える傾向は続いた。 新規の登録については、5 件となった。登録に際しては許可手続等を適切に行い、公平・平等に使用いただけるよう、運営に努めた。なお、団体の解散や活動内容の変更等により、登録辞退の 3 団体があった。貸し事務室は、3 月末現在で 11 団体が入館、11 部屋を使用している状況である。 講座、相談業務等のソフト事業実施については、年度当初から ON ラインでの対応、人数に配慮した運営を行った。イベント、ボランティア活動については、少しずつ活動が再開し、希望者にボランティアマッチングを行った。使用者と行っている「使用者協議会」等を通して、運営への意見を収集するよう努めた。なお、市と月に 1 回の定例ミーティングにおいて、状況を共有し、コロナ禍、アフターコロナを見据えた支援策について、十分に協議ができた。 《使用者の声》 ・中心地にあり、駐車場もあり、使いやすい。 ・1 F 会議室が便利。広くて便利。 ・日、祝日の開館が助かる。 ・夜間（19 時以降）の対応が助かる。 ・雰囲気がいい。 ・無料で助かる。安価である。 ・丁寧に対応してくれる。 ・身近な存在に感じる。 ・駐車場が狭い。 ・共同トイレが少ない。 ・9:30 開館が希望。 ・2 F 会議室にもヒーターが欲しい。

2022年度センター利用状況詳細

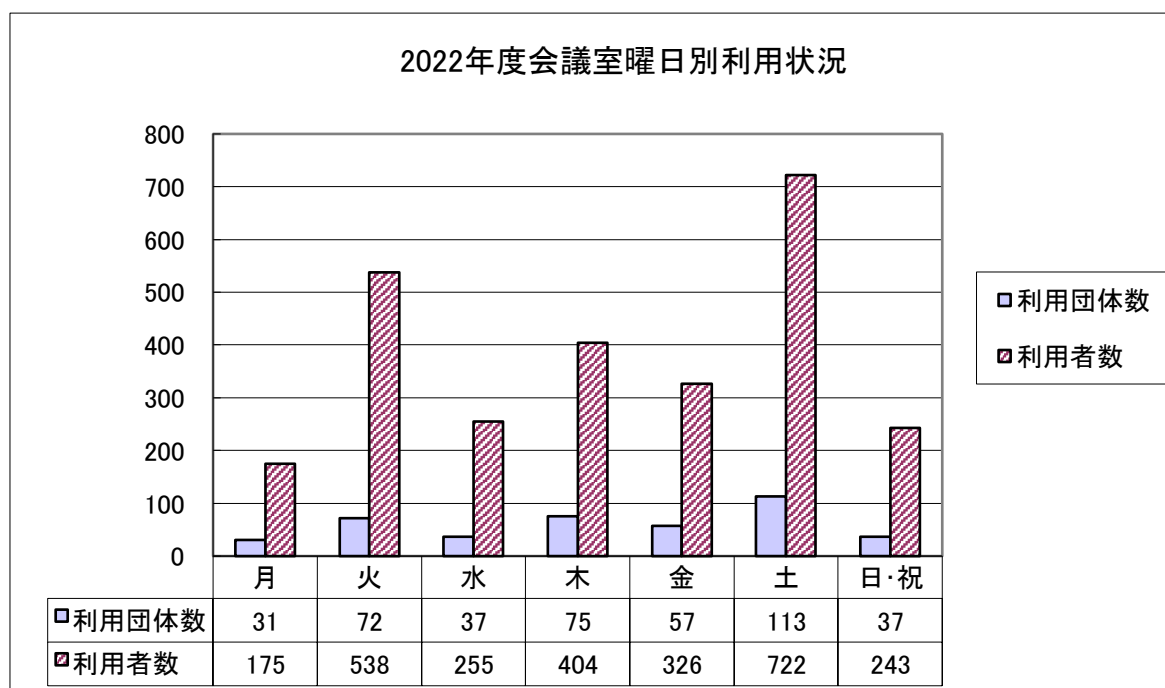
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	38	43	38	36	33	39	36	30	33	31	30	35	422
利用者数	247	256	247	223	192	224	221	170	218	212	207	246	2,663



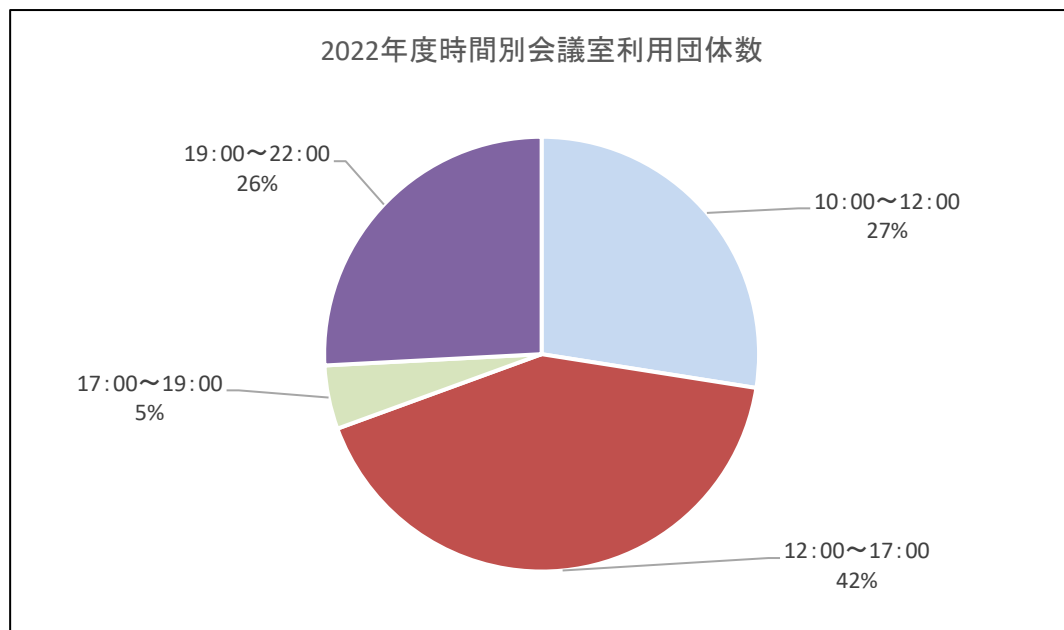
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	31	72	37	75	57	113	37	422
利用者数	175	538	255	404	326	722	243	2,663



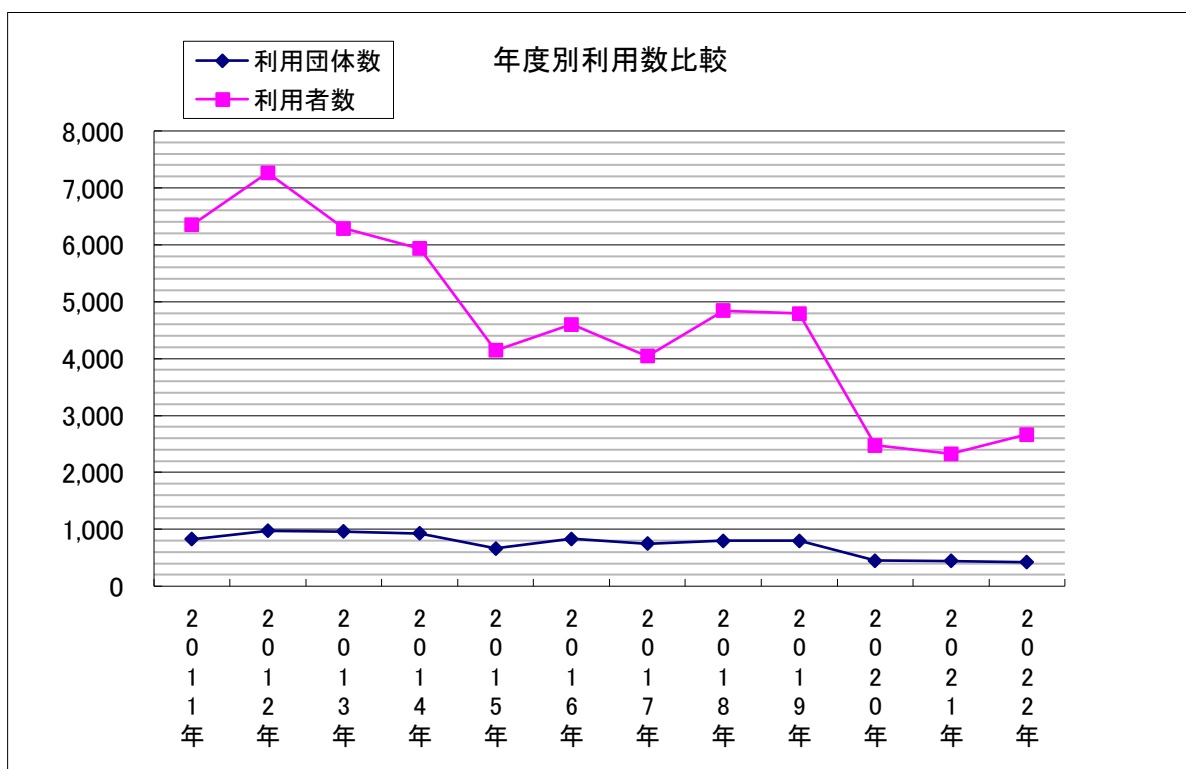
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00～12:00	10	10	9	14	8	10	8	7	12	7	9	12	116
12:00～17:00	14	18	15	9	17	18	19	14	11	17	14	11	177
17:00～19:00	2	1	1	2	2	1	2	2	1	2	2	2	20
19:00～22:00	12	14	13	11	6	10	7	7	9	5	5	10	109
合 計	38	43	38	36	33	39	36	30	33	31	30	35	422



【年度別利用数比較】

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
利用団体数	828	972	960	929	663	833	750	796	801	449	443	422
利用者数	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146	4,598	4,046	4,842	4,793	2,477	2,327	2,663



(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容

運営力向上につながる実務を学ぶ講座及び今治市内の多様な現場における活動状況を発信する見学会等を行った。現場見学会では多様な媒体を駆使したコミュニケーションによるつながりづくり等、新しいスタイルを取り入れた事業、サービス展開等、今治市内の多様な現場における工夫や知恵を共有する機会となった。社会変革性、当事者性等、市民活動の特性を磨きながら、企業や行政との協働の視点が必須であることを念頭に、協働のパートナーとしての成長につなぐことを共有できた。

第1回 資金調達を考える～効果的な企画書の書き方 (参集型+個別相談)

資金バランスを考えた運営、熱意やアイデアを形にする企画書の書き方など、活動の基本を解説する講座を開催した。参加団体は具体的に助成申請を検討することとなり、個別相談につながった。

日程：2022年4月・2回(2日間/同内容で開催)

手法：各回3団体程度の個別相談形式



第2回 NPO 現場見学会(派遣型+個別診断)

地域の課題やNPOの業務を理解するNPOの活動現場の体験機会を企画。新型コロナウイルス感染拡大(BA・5医療危機宣言)に伴い、体験会は延期を経て、個別に地域住民や市外来訪者に体験機会を提供した。NPOの課題解決に向けた新しい事業立案、広報を支援することにつながった。

日程：2022年8月、10月、11月/3回(1団体)

手法：NPO法人菊馬会の活動への参加



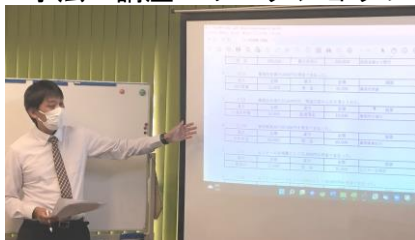
第3回 基礎から学ぶ NPOのための会計講座

(参集型+個別相談)

会計の基礎知識、書類作成のポイントについて、ワークを通して実践的に学んだ。多くの支援者を得て活動するNPOにとって、情報公開のツールとして大切な決算書類を体系的におさえる時間となった。

日程：2022年10月・1回

手法：講座・ワークショップ・個別相談形式



基礎から学ぶ NPOのための会計講座



皆さんの団体の決算期は何月ですか。3月を選んでいる団体が多いのではないのでしょうか。事業終了後に必要な事業作業は煩雑で、提出先も様々。中でも「決算」に関わる作業には「やらないといけないけど、後回しになって…」、そんな声を聞きます。改めて「決算」の大切さを考えてみましょう。

① 会計とは

会計＝①資金・資材の出入りを正しく管理

②第三者に説明するための客観的資料作成

事業年度ごとに、団体の収入や支出等を計算してまとめる作業を行います。「うまく経営できているのか」、数字で判断することに役立ちます。そして、その内容が見える形にして、情報公開！多くの支援者を得て活動するNPOにとっては、あたりまえの作業。広く一般市民に対して情報開示を行うことは、賛同の輪を広げたり、社会的な信頼を高めたりすることにつながります。「誰のため」「何のため」にするのか、しっかり確認したいですね。

★誰のため：資金を提供してくださる方（会員・寄付者等）

労力を提供してくださる方（ボランティア等）

一般市民のため（所轄庁へ提出）

★何のため：活動の分析（反省材料にする）

予算の立案（計画に従ってお金を集める）

活動を伝え、支持・支援者を増やすため



会計書類づくりワーク



実際の仕訳例から貸方と借方の基本について用語の解説。各団体の勘定科目を確認する時間に。



「未払金」「未収金」等、決算手順のワークに悩みながらも、何とかクリア。



個別相談会

目の前の疑問に应对。「何となく分かっているけど…」をクリアに！



NPO 法人 年度末事務

事業年度末を迎えるにあたって、必要な実務はコチラ。役員の変更は任期によりませんが、2年に一度は登記申請も必要な団体が多いはず。忘れず、手続きしてください。

① 通常総会の開催

④ 任期満了等による役員変更手続き（所轄庁・法務局）

② 事業報告書等の提出（所轄庁）

⑤ 納税義務がある団体…納税額の申告・納付

③ 定款記載による貸借対照表の公告

一般的な流れ

- 3月：翌年度活動計画と予算 ・ 新役員の検討（任期到達の場合）
- 4月：前年度活動報告と決算 ・ 監事による監査
- 5月：総会議案書の正会員への送付
通常総会開催、総会終結後に貸借対照表の公告
（納税義務がある団体）申告・納付
（役員任期到達日以降）役員変更登記・役員変更届出書の提出
- 6月：事業報告書等を提出

事業報告書

- ① 事業報告書
- ② 活動計算書と注記
- ③ 貸借対照表
- ④ 財産目録
- ⑤ 年間役員名簿
- ⑥ 社員10名以上の名簿



決算書とは

資金・資材のことをまとめた書類のこと

お金に関する様々なことをまとめた書類を「決算書」と言います。正式な言い方は組織によって違います。任意団体等も含め、組織の規模の大きさにアが変わらず、整えていきましょう。

＜参考＞NPO法人の会計書類

活動計算書：全体像

全体の「収益」「費用」とその差額を見せるもの
発生主義会計により、1年間の正味財産の増減を表す

貸借対照表：年度末時点の財産状況

「資産」「負債」「正味財産」のでの有高

*「資産合計」＝「負債合計」＋「正味財産合計」

財産目録：財産の内容を詳しく記載したもの

科目ごとに個別に「どこに」「なにが」あるか記載

*見た目は「貸借対照表」とほとんど同じ

財務諸表の注記：義務と任意選択の項目あり

重要視！！会計上の情報を明確にするためのもの
義務ある「7つの項目」

任意選択の「3つの項目」



NPO 法人が作成する会計書類の統一化を目指し、平成22年7月20日にNPO法人会計基準が策定されました。

詳細は… [検索](#)

「みんなで使おう「NPO法人会計基準」

財務諸表作成のために重要なチェックポイントを紹介しています！

（参加者の感想）

- 基本的なことをおさえることができた。不明なことをクリアにし、会計ソフトも検討したい。
- 事業活動に沿ったお金の流れの読み方について参考になった。
- 年度末の支払手続き等、処理の仕方が分かった。
- 1年の流れから会計処理の意味を勉強できた。

	《コンサルティング》 相談者や講座参加者等の希望に応じて、専門家との仲介、内部研修や事業設計等の支援を行った。   
対象	協働のまちづくり・市民活動に関心のある一般市民
手法	・ コロナ禍の中、少人数開催、個別相談形式など、参集の仕方を工夫して開催した。 ・ 市外の講師はオンラインでつなぐ等の手法を導入しての開催とした。 ・ 会計などの技術的な学びについては、税理士など、地域の専門家の協力を仰ぎ、研修会後の継続的なフォローアップにつないだ。
結果	オンラインの講座は、参加者が手軽に受講できるメリットを体感できた。チャット機能を使うことで、双方向での学び合いも可能である。また、講座内容のスキル獲得に留まらず、情報受発信の新しい手法として、インターネットの利便性への気づきを得た団体があった。一方で、団体同志の学び合いの場から生まれるつながり構築は難しい。同じ規模や分野の活動団体双方が介することで、連携につながることもあることから、対面する機会の創出は模索していきたい。

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、一般市民が訪れる場所に「夢サラダ」を設置し、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えた。
対象	市民活動団体・一般
手法	・ 活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	市民活動団体等117団体、施設・機関202箇所に配布した。配布部数は毎月冊子1,793部、掲示用346部となった。配布協力いただいている施設の閉館等があり、配布部数は微減となった。ボランティア募集やイベント開催の自粛傾向が続く中、コロナ禍での助成金・補助金情報、市外で開催されるオンラインでの講座情報等、掲載内容の収集、加工を工夫した。掲載内容は本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓と共に、配信方法の工夫や見直しにも取り組んでいきたい。

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

	◆使用者協議会 2022年5月11日(水) 11:00~12:30 参加者: 15名 火災等の災害への備えとして、使用者に参加を呼びかけ、「施設防火訓練」を行った。自動火災報知設備の作動、難経路の確認、消火器の場所の確認等を確認した後、避難訓練と初期消火訓練を行った。その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。各団体の事業内容を紹介する中で、まちの課題や魅力を共有することができ、有意義だった。  2022年12月14日(水) 11:00~12:30 参加者: 18名 センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。使用者は互いの活動を報告し合った。子ども達の居場所づくり、障がいのある子ども達の親の会等を中心に、発達障がいがある子ども達のケア、地域での支援についての積極的な意見交換があった。一緒にイベントを企画する等の機会があれば、連携が深まるのではないかと気づきがあった。なお、事務室や会議室、機材使用にあたっての不具合等を聞き取りし、修繕等の必要性の聞き取りも行った。 
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。 ・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果課題	会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるようにするための協議の場として機能している。また、毎年1回行う防火訓練、避難訓練の場とするとともに、今期からは自動体外式除細動器「AED」設置施設として、AED使用の周知の機会とした。年度当初は、新型コロナウイルス感染拡大期を勘案し、事務室使用団体を中心に、自主点検を促した。避難経路確認、消火器設置場所の確認について、各団体の使用者が点検し、点検結果については、チェックシートを提出いただいた。12月には少人数で参集し、大掃除を使用者参画のもと行い、使用者にも施設の美化環境整備への理解を仰ぐことができた。

(5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	ボランティアの応援を求めている組織・個人、ボランティア活動をしたい方のコーディネートに関係機関と連携し進めた。昨年に続き、コロナ禍の中、活動現場の減少や新規の活動者の受入見送り等が続いており、マッチングが難しい1年となった。一方、夏季休暇を利用しての学生ボランティア、新たに活動をはじめたいとの声はあり、少しずつ活動への意欲が感じられた。 感染対策を徹底してのイベント開催、福祉施設や病院等でのボランティア受入に向け、安心・安全なボランティアの活動環境について検討し、コロナ禍でもやりがいを持って楽しめるボランティア活動の現場づくり、地域コミュニティでの活動の発掘等を推進したい。

(6) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。
対象	市民団体・行政職員
手法	・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。
結果 課題	団体設立や運営などの相談に電話・メール・来所にて対応した。コロナ禍の中、新しい形での運営、感染対策を徹底しての活動などへの助成、企業の社会貢献活動等の相談があった。自然災害が頻発しており、災害時における復旧、復興活動と日常的な活動の連動性等を検討する相談も寄せられた。なお、今期、島嶼部で開設している出張相談、啓発ブースは中止した。新しい生活様式の中での活動展開、災害に備えたコミュニティづくり等、地域のウォンツとニーズを見極めた提案型の支援を展開したい。

来館者アンケート

【方 法】 アンケート用紙 配布（88名）

【期 間】 2022(令和4)年11月27日～12月28日

【対象者】 「今治市民活動センター」来館者、使用者

問1. 日頃のご来館、ご利用の目的はどのようなことですか？

- ・会議（ミーティング、打ち合わせ、定例会 他）
- ・役員会（理事会、幹事会 他）
- ・事業開催（学習会、研修会、相談 他）
- ・事務作業（事務室利用、団体の活動・作業、コピー機利用 他）

問2. 「今治市民活動センター」について日頃感じていることがあればお書きください。

		大いに満足	満 足	やや不満	不 満	未記入
①	施設(建物)・設備・備品	20	66	1	0	2
②	使用規定(利用時間・料金等)	27	56	2	1	2
③	スタッフの対応	35	51	0	0	2
④	講座・交流会等の企画	17	58	0	1	11

	① 施設(建物) 設備・備品	② 使用規定 (利用時間・料金等)	③ スタッフの対応	④ 講座・交流会 等の企画
大いに満足	・入りやすい雰囲気。 ・事務室やトイレ等がキレイ。 ・気持ちよく使わせていただいている。 ・大会議室が広い。	・無料で使用できる。	・身近な存在に感じる。 ・的確で明快。 ・対応が速いところ。 ・土日も対応してくれた。 ・いつもお世話になっている。	・他団体とのつながりのきっかけになった。 ・専門家の助言をいただけた。
満足	・自転車置き場がある。 ・駐車場がある。 ・今治市中心地にあり便利。 ・広さがちょうど良い。 ・Wifi が使えるので助かる。 ・清潔、お湯が沸かせる。 ・不満な部分がない。 ・駐車場が狭い。	・無料で使用できる。 無料使用ありがたい。 ・夜まで使えるのがいい。 ・予約状況がロビーにあり、わかりやすい。	・いろいろ相談にのってもらえる。 ・いつもとても気持ちよく対応してくださる。 ・いつもやさしく応対してくださってうれしい。 ・親切。	・個別対応がよかった。
やや不満	・共同トイレが1つしかない	・予約の重複があった。 ・9:30 開館にできれば。		・日祝にしてほしい。
				・あまりよく知らない。 ・参加の機会がなくわからない。

問3. 新型コロナ感染拡大を受けて、活動に起きた課題や地域のニーズがあれば教えてください。

- ・活動ができなくなった。
- ・ボランティア活動の停滞。
- ・ガイドや通訳等の依頼の減少。
- ・団体での活動に制限がかかった。
- ・例会等、集まる機会の激減。
- ・集まりにくくなった。名簿を書かないといけなくなった。
- ・消毒などの備えが必要になった。
- ・ボランティア(ガイド等の人員)の減少。
- ・集まるのが難しくなって回数が減った。
- ・集まらないことが淋しい。活動が制約されて残念。
- ・地域間の交流が減った。
- ・人数を集めての開催が難しい。
- ・集まることができない。情報交換のみとなった。
- ・人が集まる機会が減って、コミュニティとか隣の人も顔を合わすことが減った。
- ・再開の時期が分かりにくい。
- ・団体の皆さんで集まる機会が減った。
- ・予約を取るのが難しい。
- ・活動の減少はあったが、出来る活動が続けられた。
- ・継続の必要な活動なのでここを開け続けてくださったことに感謝。
- ・令和4年度は少しずつ活動ができた。
- ・特になし(4)
- ・マスクやワクチンは有害だと思う。
- ・家庭内での対処がカギ。

問4. 「市民活動センター」に望むことをお聞かせください。

- ・駐車場がもう少し広いと良い。
- ・駐車場の線が無いのがいつも車を停めにくい。
- ・開業日を増やして欲しい。
- ・常時、日祝に開館してほしい。
- ・事務室使用者が、休館日に出入りできないのが不便。
- ・紙の裁断機の切れ味を改善してほしい。
- ・中会議室にも扇風機やヒーターがほしい。
- ・共同トイレを増やしてほしい。
- ・だれもが使える場所であってほしい。(現状維持?)
- ・どんな立場の人にも開かれているセンターであってほしい。
- ・市民センターの存在がまだ十分に知られてない。何かでアピールできればいい。
- ・個人の小さなアイデアや希望にも耳を傾けて下さり、とても身近な所。こんな思いを広げていきたい気持ちがあり、これからもくだらない質問をしてしまうと思うが聞いてもらえたら嬉しい。
- ・他の市民活動グループとのつながりのきっかけができる。活動の拡がりも望める。
- ・コロナ禍の中、変わらず館での活動は続けられて良かった。
- ・例会や集まりのできる場所があり助かっている。
- ・日曜日に開けてくださり担当の方にはお世話になっている。
- ・休日にもかかわらず予約させてもらいとても助かっている。
- ・いつもお世話になっている。
- ・いつも良くして下さって感謝している。
- ・現状維持 (3)
- ・特になし (6)
- ・ずっと活動を続けたかった。残念なことになった。皆様頑張ってください。解散となる団体。

2. その他の事業

(1) 情報提供事業

①トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深めた。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)

②ホームページの運営

期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネート業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO 等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）	テーマ・目的
2022 年 4/13, 6/27, 8/30, 9/26, 10/25, 11/28	今治市市民が真ん中検討委員会	市民と行政が一緒になって地域課題の解決を進めていくために、今までの取組の見直しや、「市民参画」の具体的な方法等について、調査・検討・審議する。

(4) その他の事業

今治市の中間支援組織として、愛媛県内の中間支援組織とのネットワークを構築し、地域で抱える様々な課題に効果的に対応できるよう情報、知識・技術の習得に努めた。また、愛媛県内の多様な NPO や民間団体等と平時から顔の見える関係をつくり、必要な事業を展開した。

① 女性相談支援事業「ひめはぴサポートプロジェクト」への協力

愛媛県はコロナ禍で影響を受ける女性と社会との絆・つながりの回復を支援する目的で、「ひめはぴサポートプロジェクト」を展開した。SNS、メールを活用した新たな相談窓口の開設や出張相談等のほか、相談にあわせて衛生用品の配布を行うものである。

当会は、2021 年度に引き続きこのプロジェクトの受託団体からの申し出を受け、今治市内の個人や子ども食堂などの受入施設・団体へ生理用品配布などを行った。



② 連携会議への参加

(1)災害に備えるネットワークづくり

大規模災害発生時、今治市社会福祉協議会と地域の各種団体が連携し、災害ボランティアセンターを設置したり、地域での支援体制の構築を円滑に進めたりすること等を検討する会議に参加した。「西日本豪雨」をはじめ、過去に発災した災害における被災地支援活動の気づきをいかすと共に、必要なネットワークの構築、官民の役割分担を検討した。

・災害ボランティアセンター連絡会議

検討会議：2022年6月29日（水） / 今治市社会福祉協議会

検討会議：2023年3月15日（水）



(2)地域支え合い・災害支援ネットワーク会議

西日本豪雨災害における被災者支援活動のノウハウを共有して、次なる災害等に備え、平時から、顔の見えるネットワークの構築を図るとともに、多様化する課題を地域で包括的に受け止め、支え合いながら課題解決を図る体制づくり（重層的支援体制整備）を進めることなどを目的にした会議へ参加し、地域支え合い・包括的地域福祉推進を共有した。

○コア会議

2022年12月14日（水）・2023年2月28日（火） / 愛媛県社会福祉協議会



○東予会議

2022年9月29日（木） / マリンパーク 新居浜 大会議室

2023年2月22日（水） / テクスポート今治 中ホール



(3)地域支え合い・災害支援ネットワーク会議

孤独・孤立に関する多様なNPO等支援組織間の連携及び官民連携を促進することにより、コロナ禍で顕在化した孤独・孤立の問題に継続して対応していくことを目的とした会議に参加した。このプラットフォームを通じ、複合的・広域的な連携強化活動を行い、孤独・孤立対策に関する情報共有、相互啓発活動等の実施を目指した。

第1回会議：2022年12月14日(水) / 愛媛県社会福祉協議会 会議室

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

(1) 総会

第21回通常総会

日時：2022年4月27日

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2021年度事業報告・活動決算報告の件

(2) 理事会

第1回理事会

日時：2022年4月27日

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2022年度事業計画・活動予算の件
総会に付すべき事項の件

第2回理事会

日時：2022年9月22日(水) 12:30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：センター管理運営指定申請の件
センター事業の進捗の件

第3回理事会

日時：2023年3月15日(水) 12:30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2023年度事業計画・活動予算
2024年度総会報告事項
役員の改選の件